

【学力向上フロンティアスクール中間報告】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	内海町立星城小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9	17
児童数	37	32	36	39	37	35	5	221	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の在り方

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年国語・算数 （本校児童の実態として、特に力を入れて指導していかなければならない教科だから）

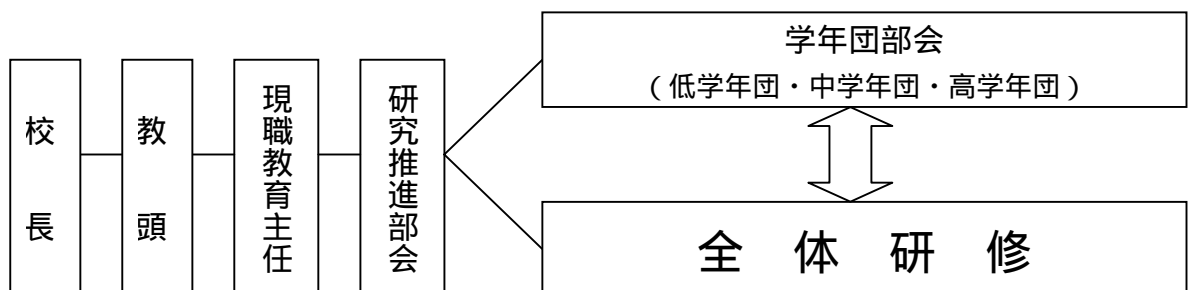
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>生きて働く言語の力を育む国語科学習</p> <p>- 思いや考えを豊かに伝え合う力の育成に向けて -</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>生きて働く言語の力を育成すれば、国語科だけでなく国語科以外の教科における基礎・基本の定着も図ることができるだろう。また、自己を認識することや他者を理解し共感することができ、望ましい人間関係を築くことができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>目標レベル：「豊かに伝え合う力」の分析表の作成</p> <p>単元レベル：「豊かに伝え合う力」を育てる単元構築</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 それぞれの言語活動で培うことができる言語の力を分析する。 2 言語活動を通して身に付けるべき力が、1学期から2学期、3学期へと繰り返し学習でき、螺旋的に高まりのある単元配列（言語活動配列）をする。 3 1年間で帰結する年間指導計画ではなく、2年間のまとまりの中で確かな力が身に付くような年間指導計画を作成する。 4 指導の意図や児童の実態や学習状況に応じて、言語活動の展開を工夫する。 <p>本時レベル：「豊かに伝え合う力」を育てる学習指導の改善</p> <p>3つの場（付けたい力が生まれる場、付けたい力の良さを確かめ合う場、新たな課題が生まれる場）</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の在り方 算数科・国語科における少人数指導を通して</p> <p>研究の見通し 算数科・国語科において、児童の興味・関心や習熟度に合わせたきめ細やかな学習を展開することで、意欲的に学習に取り組む児童が増え、基礎・基本を確実に身に付けた児童を育成することができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 (平成14年度の成果や課題をもとに研究内容・方法の見直しをし、中間報告書の内容を一部変更した。)</p> <p><国語科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各单元における基礎・基本の見直し 国語科年間指導計画の修正 ・ 各单元に適した少人数指導の在り方の分析 習熟度型少人数学習，興味・関心型少人数学習，相互作用型少人数学習 ・ 学習の評価の在り方 ・ 常時活動の在り方 <p><算数科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各单元に適した少人数指導の在り方の分析 習熟度型少人数学習，興味・関心型少人数学習，相互作用型少人数学習 ・ 発展的な学習と補充的な学習の計画と実践 ・ 事前テストの作成
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の在り方 算数科における少人数指導を中心に</p> <p>研究の見通し 平成15年度の成果を生かして、算数科を中心に、児童の興味・関心や習熟度に合わせたきめ細やかな学習を展開することで、意欲的に学習に取り組む児童が増え、基礎・基本を確実に身に付けた児童を育成することができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 平成15年度の研究の成果や課題をもとに、研究内容・研究方法を見直す。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

(個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善)

1. 研究成果

今年度実施(平成15年12月)した児童へのアンケートを昨年度(平成14年12月)・一昨年度(平成13年11月)と比較してみると、「授業がよく分かるようになった。」と答えた児童が、一昨年度が48.7%、昨年度が53.3%、今年度は58.0%と着実に増えてきている。また、半数以上の児童が、「学校での勉強が好きになった。」(53%)、「学習の仕方がよく分かる。」(57%)、「どんどん学習が進められる。」(51%)と答えている。

毎月実施している月例テストでも、ほとんどの学級で平均点が90点を超えている。特に5年生においては、遅れて進む児童の理解度が昨年度までと比較してずいぶん上がってきている。

以上のような結果が出たのは、本校で実施している複数教員による指導体制や指導形態の工夫の成果であると考えられる。

<複数教員による指導体制の確立>

個に応じた指導を徹底させるために、1年生から5年生までの国語・算数と3年生から5年生までの理科は全時間、6年生の国語・算数・理科はそれぞれ週2時間、複数教員による指導を行っている。各学級担任と少人数担当教員2名、学力向上・進路支援担当教員2名、専科教員1名、教頭1名の計6名が指導にあっている。その他の教科についてもできるだけ複数教員で指導できるように教員の配置を工夫している。また、図工・音楽・体育等の時間においては、一部教科担任制も取り入れている。

<指導形態の工夫>

国語・算数・理科においては、単元や児童の実態に応じてT・T指導と少人数学習(習熟度型少人数学習, 興味・関心型少人数学習, 相互作用型少人数学習)を組み合わせることで効果的な学習指導ができるようにしている。他の教科等では、T・T指導を中心に学習を進めてきた。(少人数学習用の教室は、空き教室を利用して低学年学習センター, 中学年学習センター, 高学年学習センターとして3教室を設置している。)

【習熟度型少人数学習の様子】



【興味・関心型少人数学習の様子】



3年「『自然のかくし絵じてん』をつくろう」 5年「発見しよう! 説明文のひみつ」

昨年度の実践をもとに、「国語科年間学習指導計画」を修正した。「『豊かに伝え合う力』分析表」に位置付けられた全ての力を低・中・高各2年間の計画の中で網羅することで、指導の系統が明らかになり、螺旋的・反復的な単元の配列ができるとともに指導の重点化が図られた。そして、言語活動と単元の型を設定することで、一つ一つの単元で主に育てるべき力が明確に

なった。これらをもとに計画的に指導していくことで、「豊かに伝え合う力」が児童の中で着実に積み上がっていく手応えを感じることができた。

朝の活動や朗読会など常時活動の充実を図ることで、授業以外の場でも力を付けることができることが分かった。継続的に取り組むことで、表現し合うことの楽しさを感じ、言葉に対する関心が高まった。特に、ふれあいタイムで取り組んだ「カルタ」「百人一首」は、児童の間で盛り上がり、学校行事として取り組むまでに発展した。

<朝の活動>

	月	火	水	木	金
8:15	書く活動 メモ 視写 聴写 短作文 など	ふれあいタイム (1・3・5年) 音声表現活動 (2・4・6年)	全校朝会 全校集会	ふれあいタイム (2・4・6年) 音声表現活動 (1・3・5年)	読書活動 自由読書 読み聞かせ など
~					
8:30					

四国国語研究大会を開催し、香川県以外の先生方にも研究の成果を広めることができた。

算数科での習熟度型少人数学習を全学年で実施した。まだまだ十分な取り組みはできていないが、実施後、児童にアンケートをとってみると、4年生では約94%の児童が、「よく分かった。」「意欲的に学習に取り組めた。」「どんどん問題を解けて楽しかった。」と答えており、前単元と比較すると、約25%も増加していた。

2. 今後の課題

国語科では、研究大会に向けてある程度の実践ができ、成果も見られた。算数科には3学期に入ってから本格的に取り組み始めたので、まだまだ十分な研究ができていない。来年度は、研究のまとめとして算数科を中心に研究に取り組んでいかなければならない。

学力等把握のための学校としての取組

月例テストの実施(年10回)

その月に学習した国語と算数の内容が定着しているかどうかを把握するためのもので、定着が不十分な児童には個別指導をする。また、前年度や一昨年度の記録と比較することで、どれくらい変容したかを見ることもできる。

4月と8月を除く月の月末に実施。

定期的な学力調査の実施(年1回)

1月までの学習内容の定着を調べるもので、町内4校が一斉に実施している。1・2年は国・算の2教科、3年以上は国・算・社・理の4教科で実施。実施時期は、2月9日・10日。

県の学習状況調査の実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

平成15年 5月30日 香小研小豆支部国語部会で公開授業及び提案発表(星城小学校)

平成15年 7月25日 香小研国語部会夏季研修会で提案発表(県民ホール)

平成15年11月21日 本校で研究発表会を開催し、全学年公開授業及び成果等を発表
(星城小学校)

平成15年12月26日 県学校教育改善研修会に一般校として参加し、成果等を発表
(綾歌町アイレックス)

研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績及び今後の予定

平成15年度の研究成果等をHP上で公開予定

<http://www.niji.or.jp/school/seizye01/index.htm>

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定

平成16年2月24日 学力向上フロンティアスクール小豆地区協議会で2年次の成果
発表 (土庄小学校)

平成17年2月24日 学力向上フロンティアスクール小豆地区協議会で研究のまとめ
発表

研究成果の普及活動の成果

本年度11月に開催した四国国語教育研究大会において、四国四県や関西方面から参加された約350名の先生方に朝の活動や授業での児童の様子を見ていただき、たくさんのお褒めの言葉をいただいた。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	